



船木さんとウグイス

十四、五年前、病気で心臓を悪くして自宅療養していた時、ふと、ウグイスの鳴き声が聞きたいと思ったんです。それで、大館うぐいす研究会に入会して、ウグイスを飼うようになり、その唄の音(鳴き声)に魅せられてしまいました。

「ホーホケキョ」としか聞こえないと思いますが、微妙な三つの唄の音があるんですよ。私たちウグイスを飼っているものは、三節をそろわせると言っています。が、三つの音を美しく唄うように育てることが一番大変で、自分のウグイスがうまく唄えるようになった時の気持ちは、言葉では言い表せないほどです。

ウグイスの音を聞くことが私の最大の楽しみなんです。ウグイスの唄の音を聞くと、気持ちが落ち着くんです。

育てるのに

苦労するんです

ウグイスは自然界では、ふだんは竹やぶの中にいて、繁殖期しか上空を飛ばないんです。明るい所で飼育すると、じっとしていないでたえず動き回り、疲れて死んでしまうため、和紙な

どで鳥かごを覆い、ある程度暗くして飼育しなくてはなりません。また、他の鳥が鳴くと鳴かなくなるなど、非常に神経質な鳥なんです。そのため、ひなのときから餌や環境に気を配ったり、唄のうまいウグイスの音を聞かせるなど、育てるのに大変苦労します。だけど、うまく唄うとなんともいえない気分になるんですよ。

ウグイスが唄う三月から九月までの間、朝五時ごろウグイスの唄を聞きながらお茶を飲むと、すがすがしい気持ちになるんです。ウグイスの唄の音は私にとって心のやすらぎなんです。

ウグイスは保護鳥のため、飼育許可が必要で、飼育も難しいんですが、飼ってみたいとお思いの人は、大館うぐいす研究会(会員十二人)においでください。一緒にウグイスの唄の音を聞いてみませんか。

7回ズブズブ

夢中熱中青春ライフ!

大館うぐいす研究会

(27)

別名春告鳥、歌詠鳥などと呼ばれるウグイスは、古くから美しい鳴き声で親しまれています。

今回は、ウグイスの鳴き声に魅せられ、美しく唄うウグイスを育てることに、心血をそいでいる大館うぐいす研究会の船木與市会長にお話を伺いました。



ウグイスの鳥かご

帯広発 → 大館着

前略

大館市民になりました (28)

☆今回は有浦2丁目の佐藤亮さんご一家です。

Q・ご家族は何人ですか

妻の洋子と長女のリエの三人です。

Q・どちらからおいでになりましたか

今年の四月、転勤で北海道の帯広市から来ました。

Q・大館の印象はいかがですか

北海道も緑は多いんですが、大館の緑はすごく鮮やかです。ばらしいのにびっくりしました。今から秋の紅葉を楽しみにしています。

Q・食べ物や言葉はどうですか

私も妻も道産子ですが、水がおいしいですね。山菜も北海道よりずっと豊富で、市日のたびに妻と二人で山菜を買いに行き、市日の人においしい食べ方を聞いて、いろんな山菜料理を楽しみました。また、この前地元の人からきりたんぼの作り方を教えてもらい、比内鶏のガラでダシをとって初めてきりたんぼを作ってみました。札幌の料理屋で食べたのとはまるで違い、スーパがおいしくてびっくりしました。

言葉は、ふだんの会話はなんとないんですが、飲み会の時、酔って早口で言われるとわからない場合もあります。

Q・大館にどんなことを望みますか

若い人たちにとって魅力のある街になってほしいと思います。商工会議所や市でも、豊かさや活力のある街づくりをめざしてがんばっているようですね。



亮(たかし)さんと奥さんの洋子さん